

令和2年度

文化芸術による子供育成総合事業  
-巡回公演事業-

劇団風の子北海道 児童劇公演

あめひめ  
マーレンと雨姫



文化芸術による子供育成総合事業 -巡回公演事業-

我が国の一流の文化芸術団体が、小学校・中学校等において公演し、子供たちが優れた舞台芸術を鑑賞する機会を得ることにより、子供たちの発想力やコミュニケーション能力の育成、将来の芸術家の育成や国民の芸術鑑賞能力の向上につなげることを目的としています。

事前のワークショップでは、子供たちに実演指導又は鑑賞指導を行います。また、実演では、できるだけ子供たちにも参加してもらいます。



劇団風の子北海道

「子どものいるとどこへでも！」を合言葉に日本中で公演活動をする劇団風の子(東京・世田谷)から、独立して1982年、風の子北海道は札幌に拠点を置きました。北の大地に根ざした作品で、道内は勿論日本全国の子どもたちのところへ出かけています。

小中学校の演劇教室だけでなく、幼稚園、保育園の子どもたちのための公演も創立以来続けています。

劇団風の子北海道の歩みと作品

- 一九八二 東京の劇団風の子より独立して風の子北海道誕生。
- 一九八五 アイヌのユーカラをもとにした「森の笛がきこえる」製作。
- 一九八七 幼児向作品「めつきらもつきらどおんどん」「うそんこほんこ隊」。
- 一九八九 「どんぐりと山猫」初演。
- 一九九一 小型作品「小さい劇場」サハリン公演。
- 一九九三 ニブヒ族を題材にした「天幕がなる」製作。
- 一九九八 ドイツの昔話から「マーレンと雨姫」、遊びを中心とした「かぜのこひろば」製作。
- 一九九九 小型作品「うしろの正面なあんだ」カナダ公演(バンクーバーフェスティバル)。
- 二〇〇〇 「お月様とゴージュ」公演。
- 二〇〇三 「どんぐりと山猫」再演。
- 二〇〇八 「十二の月の物語」製作。
- 二〇一二 サハリン州立人形劇場との交流再開。
- 二〇一四 「マーレンと雨姫」再演。
- 二〇一七 中学生向け作品「ボクラのばにしんぐぼいんと」製作。

知ってますか? ~10月1日は「国際音楽の日」です~

1977年にユネスコの要請で設立された国際音楽評議会という会議で、翌年の1978年から毎年10月1日を、世界の人々が音楽を通じてお互いに仲良くなり交流を深めていくために「国際音楽の日」とすることとしました。

日本では、1994年から毎年10月1日を「国際音楽の日」と定めています。

# マーレンと

# 雨姫



原作 テオドール・シュトルム  
 脚色 多田 徹  
 上演台本 中島 茜  
 演出 なるみてるまさ  
 美術 有賀 二郎  
 音楽 小峯 三奈  
 岸 功  
 菊池 大成  
 小峯 三奈  
 住吉 アキヨ  
 相馬 寛之  
 金田 拓  
 小坂橋 恵  
 植村 直己  
 衣装 衣装協力  
 照明 道員製作  
 小道具製作 小道具製作  
 製作

出演者  
 木村 智子  
 篠生 明  
 坂本 光司  
 上野 翼  
 杉村 香凜  
 長谷川美紀

## ものがたり

マーレンとアンドレースのくらす村では、この三年ほどまったく雨が降らず、畑の作物も育たず羊も牛も人間も水がほしくて息もたえだえです。

マーレンのお父さんの畑は、もとは水たまりだったので、今ではちよどよく乾いて青々と牧草が茂り、おかげで大金持ち。日照りさまさまです。

アンドレースのおばあちゃんから雨姫さまが眠ってしまったっていると聞いたマーレンは、アンドレースと一緒に雨姫さまを探しに出かけます。焼けつくような地面から二人を邪魔しようとしてきたのは、火の玉おやしエツケネツケペン！ さあ、二人は、雨姫さまを起こすことができるでしょうか。

## 「マーレンと雨姫」を

## 見てくださるみなさんへ

昔から人間は、日照り続きには雨乞いをしたり、大雨で洪水がおきたりすると、天の神さまにもう雨を降らせないでと祈りしたり、人間の力ではどうにもならないものをおそれたり、敬ったりしてきました。でも人間たちが科学の力で自然を征服しようと思ったり、お金もつけのために山の木を切りすぎたり、好き勝手をするようになると雨姫さまも眠ってしまうのでしょうか。

このお話はドイツのシュトルムという人が100年以上も前に書きました。二人の子どもたちが村の人たちの困る様子をみて、雨姫さまがいることを信じて出かけていきます。

この劇を見て、みなさんがどんなふうに感じて下さるのか楽しみです。

